

## 令和 5 年度 総合情報基盤センター研究開発報告書

2024 年 5 月 30 日

研究開発課題	語学教育研究センターにおける英語学習のための、カスタム目標設定・自己評価ウェブアプリケーションの設計と開発		
研究開発代表者	所属	職位	氏名
	語学教育研究センター	専任講師	EMERSON, Nicolas
研究開発分担者	所属	職位	氏名
研究開発協力者	所属	職位	氏名
	語学教育研究センター	准教授	BOVEE, Nicholas
研究開発期間	2023 年 4 月 1 日 ~ 2024 年 3 月 31 日		
研究開発成果 ※開発内容の実績を含む	<p><b>概要</b></p> <p>本プロジェクトは、九州産業大学語学教育研究センターMoodle プラットフォームに統合されたウェブアプリケーションを開発しました。このウェブアプリケーションは、英語必修 EFL クラスでの学習者の反省を促進し、達成度を向上させることを目的としています。教員が義務的に授業目標と任意のチャレンジ目標を二層設定でき、学生は自分自身の英語学習関連の目標を作成することができます。学生は学期始めにこれらの目標を設定し、教員は、通常はスマートフォンを通じて週ごとにその進捗を評価します。</p> <p><b>フェーズ 1</b></p> <p>初期の試験運用では、アプリケーション使用指標、実践者の日記、インタビュー、学生のアンケート回答を通じてデータが収集されました。反射的主題分析から、ウェブアプリケーションが学習者の反省を支援することが示されました。分析結果は、教員設定と学生設定の目標を組み合わせたアプローチが、構造的と個人化の両方を促進する上で効果的であることが裏付けされています。また、利便性とアクセスの容易さから、オンライン目標設定が伝統的な紙ベースの方法よりも強く好まれることが示されました。さらに、目標達成意欲と自己評価の向上との間に正の相関関係が確認でき、より高い挑戦を設定した学生は自身のパフォーマンスをより高く評価する傾向にあることが明らかになりました。</p> <p><b>フェーズ 2</b></p> <p>フェーズ 2 の研究では、ウェブアプリケーションを使用した学期と使用しなかった学期の学生の達成度を比較しました。初期結果は、オンライン目標設定と自己評価ツールの使用が学術成</p>		

	<p>績の向上と正の相関関係を持つことを示唆していますが、これらの結果について確証的に裏付けを行うために、更に詳細な統計分析が必要です。両フェーズの洞察から、英語必修 EFL クラスの文脈での目標設定と自己評価を理解するための包括的なフレームワークが開発されています。</p> <p><b>普及活動</b></p> <p>初期調査結果は、PanSIG 2023、JALTCALL 2023、および WorldCALL2023 など、国内外の会議で発表されました。これらの発見は、JALTCALL 2023 および WorldCALL2023 の会議録に文書化され、フェーズ 1 の詳細な質的分析が 2024 年の LERC ジャーナルに掲載されました。</p>
<p>開発目的の達成度 (残された課題など)</p>	<p><b>開発目的の達成度</b></p> <p>ウェブアプリケーションは現在、語学教育研究センター Moodle 内で運用可能であり、使用を希望する語学教育研究センターの教員によって有効にすることができます。このアプリケーションは機能的ではありますが、より広範に普及させるためには更なる改善が必要です。教員インターフェースは煩雑であり、多くの設定とメンテナンスが必要であり、利用が妨げられる可能性があります。これをより直感的なシステムに簡素化することが必要不可欠です。学生インターフェースは比較的簡単ですが、特に目標履歴ページのスマートフォン表示の最適化が必要です。現在、このアプリケーションは Moodle のカスタムコンポーネントとして機能していますが、より広い Moodle コミュニティでプラグインとして提供できる可能性があります。この拡張は、更なる研究開発と現在のプロジェクトの範囲を超えた定期的な更新が必要になります。</p> <p><b>学習影響目標の達成</b></p> <p>このツールは、学習を支援し、学生のエンゲージメントと達成度を向上させることを目的として設計されました。フェーズ 1 の結果は、学生がこのツールを学習の反省に役立つと感じており、紙ベースの方法よりもオンライン目標設定を好むことを示しました。フェーズ 2 では、アプリの使用が教育成果に与える影響を評価しました。結果は、アプリを使用した学期の方が、E-ラーニングの完了、週間の語彙テスト、語彙宿題タスクなど、複数の指標で学生のパフォーマンスが顕著に向上したことを示しています。これら結果について、アプリの効果を検証していますが、より包括的な統計分析とより広範囲に学生群を対象とした更なる研究が必要です。</p> <p><b>残された課題</b></p> <p>主な課題には、教員および学生インターフェースのユーザーフレンドリーさを向上させること、アプリケーションを完全に機能する Moodle プラグインに開発することが含まれます。さらに、これらの初期の発見を確認し、アプリの効果をより広い教育的文脈で確立するために、更なる研究が必要です。</p>